

水をめぐる旅～鶴舞公園～



●各ポイントの紹介は2ページ目をご覧ください！



鶴舞（つるま）公園は、明治42年に開園した名古屋市営第1号の公園です。田園地帯であった旧愛知郡御器所村に、精進川（今の新堀川）の改修工事で発生した浚渫土砂を活用し造られました。明治43年には、第10回関西府県連合共進会（以下、「共進会」という）の会場としても使われ、共進会終了後、整備が始まりました。

江戸時代の御器所村は、台地（熱田台地の一部）と低地の境目に位置し、村の西部は低く、水田が広がっていました。台地と西側の低地の境あたりには湧き水も見られるなど、水に恵まれた土地でした。

「水」という視点から鶴舞公園を巡り、公園開設当時の姿を思い描いてみませんか。



「水をめぐる旅～鶴舞公園～」は、
なごや歴史探検アプリでもご紹介しています。
アプリのダウンロードはこちらから↓
「なごや歴史探検アプリ」

<http://geoalpha.jp/nagoya/>



出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/vector/#4/36.104611/140.084556/&d=l>)
地理院地図Vectorを加工して作成

水をめぐる旅～鶴舞公園～ 各ポイントの紹介



番号	地点	写真	説明文	番号	地点	写真	説明文
1	正面広場		鶴舞公園は、近世フランス整形式庭園と廻遊式日本庭園が融合した和洋折衷の公園です。 正門入口から(正面広場)ヒマラヤスギの並木、噴水塔、奏楽堂を中軸に、左右対称に広がるエリアは、フランス整形式庭園の特徴を取り入れて整えられています。	8	鈴菜橋		明治43年2月21日、共進会の施設として建設。胡蝶ヶ池の中央(蝶の胴の部分)に架かった橋で、廻遊式日本庭園の入口となっていました。 明治43年10月6日に名古屋市へ寄付。当初は純日本式の木造の太鼓橋で風情がありましたが、接収中に胡蝶ヶ池南半分が埋め立てられ、昭和21年に鈴菜橋も取り壊されました。昭和30年3月、胡蝶ヶ池の掘削改修時に鉄筋コンクリートの永久橋として復元されました。
2	つるのめぐみ (鶴舞中央図書館 地下1階中庭)		※図書館の中を通過して、地下1階中庭へお進みください。 「つるのめぐみ」は図書館開館時間しか見学ができません。 鶴舞中央図書館の地下1階には中庭があり、そこにはいくつもの湧き水があります。鶴舞公園周辺は、もともと水を通しやすい「大曾根層」と呼ばれる地質で、地下水や湧き水が得やすい土地でした。擁壁に設けられた水抜き穴から湧き出していることや、湧き水を水源とする水盤が設置されていることなどから、今の図書館が建設された時(1984年)から存在したと考えられます。 湧き水に触れ「水循環」について考えるきっかけとなるよう整備を行い、地元、鶴舞小学校の児童により「つるのめぐみ」と名づけられました。 地下水が自然に湧き出ることこの場所は、都市の中で水循環を感じられる貴重な場所です。ぜひ、湧き水に触れてみてください。	9	胡蝶ヶ池		明治43年の共進会開催時に造られた池で、設計は村瀬玄中宗匠と松尾宗見宗匠。蝶が羽を広げた形をしており、中央の胴の部分に鈴菜橋が架かっています。 昭和20～27年の接収中は南半分が埋め立てられ、そこに昭和24年5月30日ベビーゴルフ場が建設されましたが、昭和30年3月、埋め立てられていた南半分を掘削し復元しました。現在は池の北半分にはハスが植えられ、夏にはきれいな花が咲きます(見ごろは7月上旬から8月下旬)。 現在、西側の護岸は石組となっていますが、埋め立てられる前は、州浜(海岸にある砂浜の景を模したもの。)となっており、木造・太鼓橋風の鈴菜橋と併せ、風情がありました。
3	旧動物園跡		かつて鶴舞公園には、名古屋市で最初の市立動物園がありました。 1918年(大正7年)に開園し、昭和12年に東山動物園への移転に伴い閉園しました。	10	奏楽堂		共進会の中心的施設として建設された、アールヌーボーを取り入れたイタリアルネサンス風の建造物です。設計者は、噴水塔と同じ鈴木禎次工学士です。 老朽化のため、昭和12年に別の形に再建されましたが、平成9年に初期の形に復元されました。 鉄柵に音符があるのに気が付きましたか？君が代の楽譜がデザインされているそうです。
4	名古屋市 緑化センター		名古屋市緑化センターは、“みどり豊かなまちづくり”を目指し、市民の緑化意識の高揚、植栽知識の普及を図るための拠点施設として、昭和55年5月15日に開館しました。昭和53年に発足した名古屋市緑政局が手がけた初めての大型施設でした。グリーンサロン(温室)と視聴覚機器は、東海財団からの寄贈によるものです。緑化相談、講習会、展示会、図書・資料の提供等、幅広く展開されています。	11	秋の池		共進会後の公園整備でつくられた秋の池です。 秋の池の水が、春の池、夏の池へ流れていく構想がありましたが、公会堂建設のため実現しませんでした。
5	なぞの石		鶴舞公園には、刻紋や大型の矢穴痕に特徴づけられる「なぞの石」がいくつか存在します。 写真の石は、団子が串にささったような前田家の刻紋がみられます。 このような刻紋が刻まれた石をお城の石垣などで見たことはないでしょうか？ 「なぞの石」は、精進川(現在の新城川)の浚渫土砂に含まれた、名古屋城普請用の石材と考えられています。 名古屋城の建設資材が精進川を使って運ばれたという文献資料は見つからないようですが、鶴舞公園に多数の名古屋城普請用の石材が存在することは、大量の石材が精進川を遡上して運搬されていた可能性を示しています。	12	噴水塔		共進会にあわせて建設され、途中地下鉄工事に伴い解体されるものの、地下鉄開通と共に原型復旧され現在まで鶴舞公園のシンボルとなっています。地下鉄の工事中は、晴天時でも土留矢板の間から勢いよく地下水がでいたそうです。このことから、このあたりは水が豊富であることが分かります。 大噴水からあふれる8本の繊細な小滝を承露盤でさらに細かく砕き、水玉と霧に変化させるユニークな姿は当時名古屋の代表的建築物を手掛けた鈴木禎次工学士(奏楽堂と同じ)によって設計されました。 現在の水源は水道水です。
6	竜ヶ池 酒匂の滝		竜ヶ池は、もともと猫ヶ洞用水を堰き止めて造られた農業用のため池で、鶴舞公園ができる前からこの地にありました。 かつては豊富な湧き水と東の狭間町方面からの水流により美しかった竜ヶ池も、周辺の市街化と下水道の整備により補給水が立たれ汚れてしまいました。 そこで、1955年に日本麦酒株式会社名古屋工場より補給水の無料提供を受け、落差4mの滝が造られ、当時の工場長の名を冠して酒匂の滝の名で親しまれています。平成12年、同工場の閉鎖に伴い、池への給水は終了し、現在は、公園内に設置した井戸から竜ヶ池、胡蝶ヶ池、秋の池へ水が補給されています。	13	鯨ヶ池 (ツルマガーデン)		正面ひろは南側、図書館前には「鯨ヶ池」と呼ばれる池がありました。共進会工事のため、沈砂池として最初につくられた池です。 鯨ヶ池の水が胡蝶ヶ池、動物園内を流れてこの池に注ぎ、さらに中央線の下をくぐり、新城川へ流れていました。 昭和12年に動物園が東山に移動してからは流れもとり、池の水も溜まり水のみとなりました。昭和26年ごろより埋め立てられ、ベビーゴルフ場が開設されました。現在は、「ツルマガーデン」としてカフェやレストランとなっています。
7	溪流		鶴舞公園には、竜ヶ池を最上流として、2つの流れがつけられました。 ひとつめは、竜ヶ池北西の登龍橋をくぐって熊沢(澤)山の北側を流れ下り、胡蝶ヶ池に注ぎ込む支流と、熊沢(澤)山を南に下る本流に分かれる流れ。2つめは、菖蒲池への流れです。 こちらの溪流はひとつめの流れになり、現在は枯流れとなっています。 これは、胡蝶ヶ池から子供の広場東・動物園内を流れて、正面入口付近にあった「鯨ヶ池」に注ぎ、新城川へ流れていました。				

健全な水循環の回復について(名古屋市公式ウェブサイト)
<https://www.city.nagoya.jp/shisei/keikaku/1008387/1008424/1008768/index.html>

水質環境目標値市民モニタリング(名古屋市公式ウェブサイト)
<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/kankyuu/1012555/1012556/1012557/index.html>

